

昭和12年10月1日（金）

朝降雨。巖カードを道順組立てし、此日取立てを休む。長靴を借りて出勤す。往復葉書二十枚求め、九日招待会案内状を記載す。午後六時、猶不符合、即ち帰る。雨歇む。久邇宮（くにのみや）多嘉主殿下薨去（こうきょ）により、八時よりの演芸取止めとなる。

昭和12年10月2日（土）

晴天。例により午後一時二十七分発列車にて出発。牛乳午前中に配達、従来午後三時頃配達になり、販る近く配達されつつありし為、注意せしものなり。此夜風呂に久子と共に行く。販りに葡萄拾銭求め一同と食す。午後七時半、山崎氏宅を訪ふ、不在にて戻る。此日柳原氏宅にて会合ありし由。

昭和12年10月3日（日）

晴れ、後曇り。庭前の朝顔は取去られ、綺麗に掃除されたり。午後より手紙書き五通発送。先頃請求の書籍類4, 12銭、代引きにて一日到着。是れを特別の厚意にて、日曜なるも便宜渡して貰ふ。七冊到着、3, 50の代金と郵料62銭。

昭和12年10月4日（月）

四時半起床。七時二十分より朝食、四十分より仕度にかかる。髯剃る余裕なく出発す。恰度バスが出発せんとする際故、之に乗り、南新町にても電車が到着したる瞬間とて之に乗り、駅に至れば猶十分を余す。然るに汽車は七分程遅着。兵士三列車に満載、各駅驩送迎甚だし。列車の遅着も此の故にと思わる。中尾氏より手紙到着、

返事局内にて認む。東吉富村、太田岩吉氏より昨日、茶一缶持来ると云ふ。太田氏入営せりと云ふ。受取るべき筋にあらねど今更詮なし、巖方に遣る。夜髯剃りに床屋へ行き、20支払う。招待状を書く。巖に宛名を記載せしむ。十時過ぎ寢床。子供も遅くまで起きて居る。

昭和12年10月5日（火）

朝来降雨。巖外出せず。振替貯金の効能を説き加入を薦む。即ち承諾す。貯金も110円余に新規申込む。終日降雨。朝本局に廻り、竹折氏に、取立金為替は昨加入として返付越したるものの処理を尋ぬ。猶、債権利札欠缺に対する処理を質す。六時過ぎ帰る。消耗品を帳簿に对照して調査せし為なり。今日招待状全部發送せり。木下君より電話あり。九日は防空演習ありと、注意あり。新聞を見、十時寢床。

昭和12年10月6日（水）

朝来曇り、時々晴れ。九時十分出局。消耗品に対し所在を明らかにする為、標示をす。四時過ぎまでかかる、猶完成せず。鶴居局長臨局、木下主事臨局。招待会に対する返信早くも集まる。高羽駒次宛て配証は松川巖に中津駅前局とし到着せり。六時帰宅の途に就く。

昭和12年10月7日（木）

曇り、陽の射すこともあり。一般に冷氣衰えず。職員調書作成。中尾氏より手紙あり。余の手紙受取る前、書き、發送前受取り、それに対し添記したらし。返事呉れとありし故、貢氏より書面ありしこと、未だ返事せざること、佐世保に不幸ありしこと、それ等の為、未だ貢氏へ快報を

発送し得ざるやも知れぬ旨通知せり。六時近く帰途に就く。手紙は駅の鉄柱に投函せり帰宅。松田氏を訪ぬ、大分に行かれたる由。郷里の柳浦に立寄りしものと覚ゆと、奥様の咄。九日の披露会に臨席を仰ぎ帰る。朝吹氏あり、容易に帰らず四十分程待つ間に飯る。此間悦子に夕餉を与ひ、一寸戸外に出づ。夜突然、燈火管制の通知あり。九時にサイレン数回、電燈点滅三回、消燈に入る。十時解除。

昭和12年10月8日（金）

夜半より豪雨、朝に至り愈々（いよいよ）甚だし。九時過ぎまで子守りす。夜半、悦子鼻を詰まらし呼吸困難の為、泣くこと激し。朝も早く起き睡むかったらし、余に抱かれた俣寝る。九時半、余の短靴番傘を翳して出勤す。昌江に配証を送る序でに、駒次よりの手紙を封入す。恩給証書938円及び駒次よりの手紙を、久子持参呉る。久子は昨、伊田後藤寺に来たり、今日当地に来たれるもの。鶴居局通信手四時来局、何も調べずに去る。今日三郷及び今津より不参加を表明し来る。中尾氏より保険申込者の保険契約記番号金額を回答越す。夕方より燈火管制に移る。80円即時払います。

昭和12年10月9日（土）

晴れ。久子蓄音機を掛く。八時半頃仕度初め、九時過ぎ出勤。今日の披露会に出席申出たる山移局長は、電報にて欠席申越しあり。羅漢寺は回答不来、不参処理とし都合今津、柿坂、三郷と共に三号局側五局、中津局よりは佐藤電話主事、後より林田共通交車と都合七名、之に対し竹折、中野、下村、永江しずめ氏、巖を加え合計二

十五、島原、石丸両医師、松田威治氏あり。六時閉会となる。余は三時過ぎ一旦帰り、髯剃り20筑紫亭に至りし時、五時に二十分前、猶、座敷片付かず帳場に休息す。少時して奥二階に座席を定め、之に案内さる。余の挨拶に中村局長謝辞にて開宴。八時まで防空演習燈火管制中を献酌、夕食後散会。永江と巖の為に折詰めにしてやる。耶馬溪線は八時半の終列故、余は駅にて一時間余待つ。九時過ぎ解除、九時半出発。小倉よりは佐世保行き、面会人おおし。午前一時三十分着、二時に帰着。門扉固く鎖され裏に廻るも入る能わず。少時して照明あり、澄子起きて開けて呉れる。

昭和12年10月10日（日）

五時過ぎ起床、快晴。昨夜蚊帳吊らず。一昨夜も、久子泊まりし中津の夜も蚊帳を廃す。昨夜の階下も蚊帳を廃したるも、蚊は居りし由。蒲団を干す。恩給六月まで一期分、蓑島局より受取りしと貯金局より通知あり。明日第二期分と共に受領の筈。夕方より次第に曇る。静江氏より女中の手紙を添付、意見を徴し来たりしに對し返信せり。其の他、返信を怠り居りし向きに對し発送せり。

昭和12年10月11日（月）

四時三十分起床、七時博多駅着。香椎往復30、神宮に参詣せんとせしも途中にて時間の迫るを認め、遙拝して急遽帰り五分を剰す。汽車は七八分遅着、列車内を搜索、殆ど最後に居る。博多駅にて蓑島行を求め、八時四十分を待つ。消滅して発車せず。即ち電車にて帰宅。道子停留所に俟つを、久子をして喚び戻さしむ。昼は鮎を餐す。余は第一回の恩給234, 50と四月より六月までの前期分

同額を受取り、一期額を貯金して澄子に渡し毎月払戻さしむ。年金参円受取る。日中熱く流汗に残暑を偲ばしむ。外出せず。道子案内して入浴、夜は道子久子風呂に行く。余は階下に寝、道子は二階に接待す。

昭和12年10月12日（火）

降雨激し、十時出発。天神町より二日市往復48づつ、太宰府8銭。海玉館に昼食を摂る。午後より霽れる。参百散財、四時五十分帰福。階下食堂にて鮓50銭、土産45銭。六時帰宅、中尾氏の要求により200円渡す。此の夜も道子、二階に寝床が変わると寝られぬ癖ありとて、昨夜は碌に睡り居らぬと云ふ故、日中休養せしめん存意なりしも、昼寝は出来ぬとのこと。中尾氏の喋舌には驚き居れり。

昭和12年10月13日（水）

曇天。十一時道子、久子の案内にて箱崎に行く。余澄子留守居す。此の間手紙数通認む。三時頃皆飯る。動物園を見て、松屋食堂に昼食を喫したるよし。道子階下に寝る。

昭和12年10月14日（木）

朝三時過ぎ中尾氏起床、余は四時三十分起床。便所より出るを擁し金光教会案内を要請さる。水浴三十分、五時過ぎ出発。西公園下車。荒戸町を上る、直に発見。氏が礼拝さるる間、少時俟つ。七時帰宅。朝食を済まし、十時過ぎより連立ちて野村望東尼墓地を見、次いで高等学校前より水上公園を経、西公園に行く。桜樹日和続きに花を咲かせ、時ならぬ姿に行人の目を峙（そばだ）た

す。地内を一巡して松屋に至り、ゴム長靴を3, 20にて求め、二時半帰宅。昼食何も摂らざりし。此の日快晴、爽涼の気漂う。夜中尾氏に説諭し、滞留を嫌忌するに非ざれど、永く居ることの意味をなさざる所以を注意す。

昭和12年10月15日（金）

朝の間晴れ、午後より曇り。氏教会行、昨は橋の傍らまで、此日は堤防までにて引返す。此の日、午後六時には出発、直に上京の由。旅費10, 07。五時夕食を済まし、六時道子と簗島停留所発にて出発。降雨の惧れあり。博多駅に着する頃より雨降る。帰りも九鉄を利用せんとしたるも既に発車後、僅かに二分間の間隔にて乗込む為、間に合いざりしものとす。電車を利用して、途中林檎10銭求め帰宅。雨歇む。

昭和12年10月16日（土）

朝来降雨。此日中村逋信局長初巡視、楽山荘にて歓迎会開催の由。余不参。電報すべく雨を冒して新柳町局に至り電報し、簗島電停所前、福永武男氏を訪ふて、曩日人の世話を余に依頼ありし事に就いて一応諒解を求む。冷氣甚だし、帰りて綿入れを着る。夕方より雨歇む。此日は柳原先生宅にて真の郷会あり。明日は満州当番三上氏の来博により、藤辰太郎氏方にて同志の会合を催す由、山崎氏より通知あり。柳原氏への参加は雨と寒さの為、欠席す。

昭和12年10月17日（日）

曇り。澄久デパート行、冷氣は変わらず。先日修理の目覚時計、働きを停止す。久子をして再度修理方を交渉せ

しむ。午後三時過ぎ澄子販り、道子の羽織、及び中津より委嘱せられしと云ふネンネコの反物を求め来る。余は反物として所持し居る銘仙、及び大島を仕立て貰う積もりなりしも、その分は澄子が縫うことにして、道子の為め新調の分を先きに中津に持参することになりたり。午後六時より理髪髯剃り、七時出発。山崎氏、かかり行く十分前出発せし由。福永氏宅に赴き藤氏を訪ふと云ふ。余は単独にて藤氏を訪ねたるも、町名を失念し空しく販宅、明日の準備をなす。鬼足袋、手当し貰ふ。

昭和12年10月18日（月）

四時半起床。余り吞気に構えたる為、八時前七八分、大いに驚き駈足にて飛出し、漸く汽車の間に合う。朝山崎氏に葉書にて昨不参を謝し、次期土曜日伺う旨認め、久子に投函せしむ。十一時半着、六時帰宅。長靴と例の反物とを出す。聞く処によれば一昨日、中村逋信局長中津局に臨局、郡内局長を引見、局長室にて昼食を共にし長洲に向かわると云ふ。

昭和12年10月19日（火）

朝寒し、其の代わり快晴。五時帰る。直に松田氏より羊羹及び鰻を頂ける由に付き礼に行く。同氏不在、奥様に其の事を申置き帰宅。筑紫亭会計七十五円を巖に持行かしむ。不明の問題を解決の為、本局に行く。上原君居る、八分通り快復せりと云ふ。二時頃中津局有志の名を以て、廻転椅子参個を先日の礼に送越さる。窓口に配布す。十月一日より局員の優遇原資510増額あり。通信手2,00、他五銭宛て臨時増給したるも、拾銭剩るを全部支給せよと本日附箋通牒あり。是永員に一銭増し五十九

錢として報告す。快晴。

昭和12年10月20日（水）

此の日寒気大分緩和す。出勤時、三共練炭会社貯炭所前にて、管家原氏に偶然会逅す。今度の土曜日福岡行に付き、先生の諒解を得たる旨を告げ、一緒に行くことを慫慂す。午後一時二十分迄に駅に來れと通告す。午後五時、帰宅の途に就く。夜新聞を見て九時四十分寢床。

昭和12年10月21日（木）

日中暖かなり。午後一時中津局より電話。唐津の横町主事、見学の為、來津の旨話あり。昼食を耶馬溪俱樂部にて摂らんとすることに賛意を表して來局を俟つ。一時半頃、木下君と來局。乃ち俱樂部に至り洋食を注文し三人会食す。酒一本、450支払う。宇佐に行く恰度今、発車せん計りのバスに乗り込み出発さる。見送りて歸局、同氏よりの土産品を保管し貰ふ。歸れば萩の餅を造るに、悦子を負うて大儀そうなり。乃ち悦子を受取り守りす。闇無浜に至りて歸る。巖歸り遅し、六時を過ぐ。餅を普通に食し腹に異状あるものの如し。胃中の物を吐き出し胸晴々す。十時四十分寢床。風呂沸く。

昭和12年10月22日（金）

割合暖かなり。悦子連れ闇無浜に至り、漁獲船に満載の蝦（えび）を運搬する態を見る。可なり大獵なりし。八時四十分発、九時出局。四日目にて地況調書發送す。太田岩吉氏に祝儀（しゅうぎ）二円を包みたり。東京放送協會に朝の修養テキスト拾二錢送る。永江氏より80錢債券取扱費、心得宛て來著のものを受取る。中尾氏、増



田氏よりの手紙受取る。

昭和12年10月23日（土）

昨夜より割合暖かに、本朝一時雲翳に鎖され陽光を見ず。七時半頃より霽れる。昨五時前十分帰り、途中相談所に寄る。既に全員帰宅跡掃除中。豊後町裏、秋葉氏方に管家原氏を訪ふ。不在、局員某氏の悔やみに行ける由。要点を申置き戻る途中同氏に会逅、電話、西氏父の死去に会葬せしものの由。九時十分出局。中津局後藤晁氏臨局しあり。午後一時十分管家原氏、局前に見え少し早き憾みあるも出発す。此日も上下列車共定時より遅れて発著す。余は横町氏より貰ひし菓子折持参。久子が置いて行きし旅行鞆も巖より届けられたるに付き、夫れをも携え四時五十分博多駅着、五時過ぎ到着。夕食後玉屋に衣装展覧会を見に行く。バスが嫌いらしいので新柳町まで徒歩、夫れより電車。玉屋にて展覧会場に上る。上代より各時代毎に代表的服装を人形に着け、惹の跡を偲ぶべし。更に近衛首相及び夫人の日常の着物を配す。近代服装も絢爛、目を驚かすに足る。前後三時間、七時五十分頃帰宅。早く休まず、前日の分補足。夜松田咸治氏来宅。例の子供の飛躍に、驚きの目を峙（そばだ）たせたるを懷（いだ）く。巖は悦子を連れ外出。愛子は林檎を出し振舞う。余もはらはらさせられしもの多し。詢（まこと）に客来には、其の都度、気の毒の感を深ふするを常とす。

昭和12年10月24日（日）

朝六時出発。櫛田神社托鉢三十分に五分钟前、桑原氏、外数氏既に掃除に着手、大分進捗し居る。余も遅れ馳せ

ながら働き、七時二十分、山崎氏と福日社主催の四王寺山、戦勝祈願に参加を約したる為、引上げ一旦帰宅。朝食を喫しハイキング仕度して、八時過ぎ出発。管家原氏は唐津に行く。余はバスと電車にて吉塚駅に至れば、山崎氏待ち居る。即ち直に乗車、片道33銭を13、尤も宇美までは27銭らし。八時四十五分発車、九時二十八分着。夫れより宇美八幡宮に参拝、祓（はらい）潔めの後、苑内を逍遙、十時境内発。此日遍路姿の者多く、山伏あり僧侶あり千態萬様、無慮（むりょ）五六百名。途中札所に立寄る者、景勝を探る者、心々にて帰一せず。二度程余等は休息せり。一行は三名、余、山崎氏の外福永氏も居る。屏風岩より鮎返り滝を見、毘沙門天に廻り四王寺山頂広場に達す。時に0時半。山頂にて祈願祭、木下讃太郎先生の国防と大野城に関する講演あり。余等は多少遅れて到着したる為、此等の催しに対し参加せず。是れまでの途中茶菓の接待あり。竹杖を各自に贈与の向きあり。斯くて二時頃より太宰府に下山、天満宮参拝。次いで山崎氏の案内にて石穴稻荷に詣で、四時過ぎ、再び太宰府駅前に至れば七八十名の会員あり。四時三十分発車、五時終点着。福永氏に採取し貰ふ神芝を大切に持来し、五時三十分帰宅。管家原氏帰宅しあり。夕食後七時過ぎ、今日の集会場なる山崎氏宅に至る。松居様に面接す。既に名古屋に出発せられしと思ひしに、玄関口にて立咄す。名古屋には十一日頃になるべしと謂わる。今夜は法事に行かねばならぬからとて、お断りに来られしなり。座に至れば柳原先生も来て居る。安藤氏、藤氏見えず。先生の発意にて光誌を読み味ふて、天香師の訾咳に接する俤を偲ぶこととなり、山崎氏より初む。

次いで先生の感想あり。十時半閉会。余会計係として早く帰るわけに行かず。会費五円の内50銭を茶菓代に山崎氏に贈呈。4, 50を持参。十一時二十分帰宅す。皆寝て居る。今日の集まり、柳原先生外七名。飯塚の畠中氏見え、老母病氣重体の由にて、明朝出発せんとのことにて挨拶に来られたるものの由。

昭和12年10月25日（月）

快晴、連日の秋晴れにて心地よし。今日は舉家東公園内動物園を見に行く。柳町まで徒歩、夫れより電車、動物園前下車。先日到来の縞蛇二尾も居る。一時間半を費やし、更に箱崎八幡宮に参拝。0時30分箱崎駅に至り、一時十二分発まで待合わせ。管家原氏を乗せ、昼食代も50銭贈呈。子供の後を追ふ。松屋にてスリッパ四足、鉄筆一本、鳩目綴り等を求め、事変戦利品、現代機銃器を見て、三時過ぎ帰れば鍵かかり入るを得ず。流れ窓より入り、水浴して待つ。四時皆帰宅。余は帰りがけ、簗島局にて光友会の貯金通帳を申込み、4, 93銭を預け入れす。

昭和12年10月26日（火）

朝寒し、日中暖かなり、蒲団乾かす。久子に回数券21, 60にて求めしむ。午後より手紙の返書を読む。平塚、中尾、横町及び中村中津局長、中津局長には椅子を寄贈されし礼状なり。道子久子買物に出掛く。余、明日出発の準備をなし、十時寝床。

昭和12年10月27日（水）

快晴、四時二十分起床。昨夜シルコを食べ本朝も亦作っ

て貰ふ。七時四十五分発、一区も乗車せず駅に至る。五六分遅る。途中睡り小倉で将に発車間際に起出て、発車して下車す。此日暑く流汗、歸りて水浴す。珍らしきことなり。襦衣（はだぎ）冬の厚手を着用にも因る。管家原氏礼に来たり、花を持参。自席に飾る。巖の捕り来たれる鯨（はぜ）のてんぷらを頂く。局舎料、拾六円支給のこととなる。経費未だ来たらず。従って事務員給支払ひ得ず。

昭和12年10月28日（木）

快晴、非常に暖かなり。今日は曇り雨模様の予報を裏切り、午前中は好天気、午後よりは曇り。三時頃中村局長臨局、昨朝も同氏見えたる由。新聞に電話局竣工の記事を見たる旨、開局は予定より遅るるとあり。其れ等に付き説明あり。最後に別室にて、金参拾円を貸して呉れとのこと。豊島氏に嫁せし娘の膀胱炎治療費に供するものの由。明朝差上ぐべしと約す。既に四時を過ぎて居れる為なり。上海占拠祝賀提灯行列、旗行列等あり。五時半帰宅。夜、提灯行列頃に雨降り初む。間もなく歇む。

昭和12年10月29日（金）

午前中快晴。後藤昇氏臨局。九時半退局。中村氏より小使い派遣あり、三拾円貸与す。給料立替え交付す。終日好晴を持続す。中津局より松本氏の筆にて発著時刻表を送付越せり。速達の為に取集時間外に閉め、曩の差立であるを知り、中津局に対し本時刻表の交付を要望し置けり。明日公会堂に於いて健康映画会、午後六時より開催の趣にて入場券の交付あり。約三時間の見込みと云ふ。種類、第十一回オリンピック大会四巻トーキー、人生の

幸福三巻、健康報国二巻、君が代の由来四巻トーキー、以上。尤も此日午後七時より商工会議所に於いて、時局関係ニュース映画あり。其の方に多分吸収せらるる惧れあり。夜も快晴、暖かにて蚊が出て蚊除線香を点したる如きも、大分喰われたるらし。悦子時々目覚め啼く。

昭和12年10月30日（土）

朝来曇り、降雨あり。八時頃一段甚だし。八時三十分出発、歇む。局に近く再び降り初むるも、次第に明るさを加ふ。九時過ぎ全く歇む。道路多少悪し。昨夜巖に10円例によりて食費として遣る。保険費のみ二十七日到着、拾円以上あり。午後一時二十分発、定刻より十分程遅れ三十分過ぎ発車。十七分下り列車には多数の戦死柩並べられ、国防婦人会員の見送りあり。五時帰宅。

昭和12年10月31日（日）

晴天。十時頃より道澄、活動写真に行く。久子買物と一緒に掛け午前中帰る。夕食は久子、鰯を求め来たりたるを焼いて食べさす。道子等は五時過ぎ帰る。女専の生徒多数を占め居れりと云ふ。先日久子玉屋の売出しに、廉価に兵児帯50銭にて求め来る。余之を買戻す。猶、明朝玉屋に同行を促す。